

# World Stella News

Vol-20



一般社団法人 地球環境改革再生機構

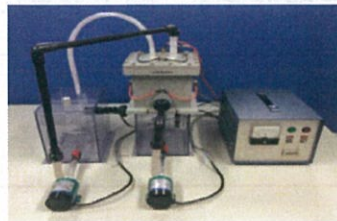
東京本部 東京都豊島区巢鴨 1-10-3 第三川端ビル 2階  
広島Office 広島市中区舟入町 2-20 三栄広島ビル 4階

TEL : 03-5981-9131  
TEL : 082-232-0369



2022.4.26

- 世界の代理店から幾つかの情報が入りました。  
(今回、そのまま皆様へお伝えします)



世界を救う電解電子機能水生成装置  
UH-1 型

- アメリカ (2022・4・25)

- ① 穀物・化学肥料・農産物専用鉄道ユニオン・パシフィック鉄道が全米で止まっています。
- ② 4/15 穀物、化学肥料の移動が禁止されました。
- ③ アメリカの食品加工工場 15カ所で火災（消失しました。）放火のようです。
- ④ 去年のハリケーン被害により、東部海岸化学肥料会社 2社が崩壊し、化学肥料の生産量が落ちています。
- ⑤ 中・西部が大干ばつとなり農産物の生産が急激に落ち込んでいます。

- 中国 (2022. 4. 22)

- ① 上海のロックダウンが終わりましたが、食料の配給性が続いています。1日2食分です。
- ② 上海の住人の3% 約72万人の人たちに食料が配給されていないようで暴動があちこちで生じ、怖くて外に出られないと言っていました。
- ③ 昨年の大洪水で中国の15%の田畑（1800万ha）が失われました。元々、食料の輸入国だったものが、更にひどい状況となっています（日本の4倍以上です）。
- ④ 現在、リン酸（化学肥料の原料）の日本への輸出を禁止しています。
- ⑤ 上海沖にコンテナ船、穀物船等、約500隻が荷揚げを待っている状況です。

- インド (2022. 4. 15)

インドでは、COVID19の影響で人手がなく、種子の確保がうまく出来ませんでした。例年の30%程度だそうです。又、農作物の収穫が出来ず、例年の20%程度となり、今年から食料の大輸入国となりました。

- ロシア・ウクライナ問題 (2022. 4. 20)

ロシアから購入している化学肥料・塩化カリウムが入荷されなくなりました。



● インドネシア (2022. 4. 25)

- ① 2022年4月28日より、食料油・パーム湯の輸出が禁止されることとなりました。
- ② セルビア・モルドバ・ハンガリーでは、食品・農作物の輸出が制限されることになりました。

● 日本 (2022. 4. 25)

- ① 円安及び競争が激しく、全農・商社の買い付けが進んでいません。
- ② 天然ガス、石油の高騰のため、化学肥料の生産ができなくなっています。
- ③ コンテナ船、穀物船が手配できず、輸入できない状況です。

世界的に食料保護主義が高まり、今までとは全く異なる状況となっています。



こうしたことから導き出せる結論として、次のことが考えられます。

- ① 種子不足による生産量の減少
- ② 化学肥料・農薬不足による生産量の減少 (F1 種子は肥料食い、そして農薬が必要不可欠です。)
- ③ 海外から農作物の輸入ができない。
- ④ 海外から穀物の輸入ができない。(畜産業の崩壊)

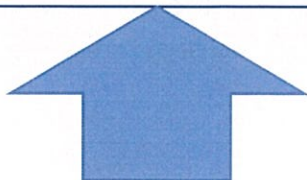


??????

結果については想像してください。

そして私たちがすべきことは何でしょうか？考えてください。

- そして、●これ以上戦争が長引かないこと。  
●新たに戦争が起きないこと。  
●今年は大災害が起きないこと。



- 1日も早く世界の経済が元に戻ることを祈りたいと思います。